

たわわ

TAWAWA

地域で生きる障害者を支える会通信

発行 2006年3月31日

65号

「地域で生きる障害者を支える会」会報

住所：横浜市港北区下田町6-31-8

活動ホーム「しもだ」内

TEL 045-562-3600

FAX 045-562-5991

福祉制度のすきまをうめる

支援を目指して



三月も残すところわずか、木々が花を付け始め春爛漫の季節になると、新しい年度への息吹が感じられるようになります。

私たちの福祉の世界も、会議が目白押しになり、忙しくなるのはこの時期毎年なのですが、役所を始めあちこちの職員たちも移動になり、20年一日のごとく同じ事と取り組んでいる私達は、いつも送る側の寂しさを味わう季節でもあります。「桜が散ってしまわないと、落ち着かない」という人もあり、やがて、新年度の引き締まった空気の中で、それぞれの新しい日々が始まることでしょう。

* * *

今年は、障害者自立支援法によるいろいろな変化の中で、デイサービス場である「活動ホーム」も、グループホームも10月までは今の状態の活動が続きます。それから先は事業の形態が変わる様になりますが、相変わらずその姿がはっきりせず、困っています。利用する障害者や家族たちも、家庭内での世帯分離をして横浜市の“向こう三年間は”という支援策を受けることにするか、もう少し様子を見ようかと、苦しい選択にせまられているひともいます。

「後から思えば、アレでよかったのだ」と思えるようならば良いのですが、この判りにくい時の流れの中で、誰もが迷っているばかり……。とりあえず、とりあえず、と考えて予算組みをし、事業計画をたてています。

このような時だからこそ、地域で暮し始めた重度障害者の生活を安定した物にするためにも、私たち「地域で生きる障害者を支える会」のような支援組織の大切さは、いよいよ増えています。

「支える会」自体も、ここ数年で活動の行く末をしっかりと見定め、現状を把握し、変えたり補強したりする所は整備しつつ、力を合わせて行きたいとおもいます。

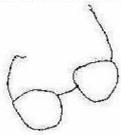
会員一人ひとりが、自分たちのことも含め、支えあえる会に発展できれば...と思う今日このごろです。

よつばホーム 第2よつばホーム運営委員会開催される

18年度予算・支援計画決定



3月25日(土) 西部町内会館にて、平成17年度第3回運営委員会が行われました。お集りの皆さま、たいへんご苦勞様でした。委員会では18年度の事業計画、予算、職員体制また夜間手当の改正案などが話し合われました。よつば、第2よつばとも大きな事故もなく生活が安定しており、来年度は休日の過ごし方も含めより充実した生活が提供できるように職員一同励んで参りたいと思います。



めがねのこえ

大倉山記念館で行った障害者たちの作品展「くれよんの夢」で久しぶりに 昔のサークルでお世話になったボランティアのKさんに会いました。くれよんの夢には 私はみんな友だちと呼んでいます。声を掛けてくれたり 励ましてくれたりしかってくださる人たちが何人か来ていて、いつも「たなばたさまのようだね」と言って楽しくはなしています。

Kさんも昔からの知り合いで、会うたびに「もっと詩を書いて出せよ」としかられ(?)ています。この前、「もう ふれあい委員会のボランティアも 送迎も何もかも今年で終わりだ」

「早くおなかすいたのも 暑いのも寒いのも何もわからなくなりたいよ」などと冗談を言っていました。ほんとは 視野が少し狭くなったり 病気もでてきたということです。

皆が「やめたらだめよ!」と言うのですが 私も普段は余り会わなくても 会えなくなるのはさみしいです。

* * *

いつも思うのですが 障害の重い私は、すぐに誰にでもわかっていただくのは、難しいのです。お話が通じるようになったり 介助を覚えていただくのに時間がかかります。やっと慣れたところに若い人は それぞれ別の道に進んで 別れなければならないことがおおいのです。それはしかたがないと 思いますが、心の中をわかってくれたり すぐに話がやりとりできる人と 別れるのはとてもつらいです。今はメールや、ときどき会うことも出来るのですが、生活の上でお世話になっている人などは、とくに寂しい。もちろん長く友だちでいてくれる人は、何人もいるのですが...

この季節になると 春の風が 心の中を吹き抜けていくような微妙な気持ちになります。

大原 友子

会費納入のお願い



『地域で生きる障害者を支える会』の会員として、会の活動にご参加いただきましてありがとうございます。はやいもので今年も会費をご納入いただく季節がまいりました。

暖かい心と共にお寄せいただく皆様の会費は会の活動の重要な資金源になっております。

もとは、デイサービス場を作り一息ついた親たちが、高齢化していくなかで「重度重複障害を持つ人たちが地域の中で暮らしてつづける」ことを真剣に考え始めたときに、広く支援を呼びかけて「支える会」が生まれました。それから現在に至るまで、本当にいろいろなことがありました。

しかしこの間、会員の皆様からは、一度として後ろ向きの意見が寄せられたことは無く、グループホーム試行から設立、第2館めの設立をはじめ、啓発事業の写真展や、チャリティーコンサートの開催、グループホームの地域交流イベントの取組みなど、大きな事業から日常的な支援にいたるまで、影に陽に会員の皆様一人ひとりの存在が、推進力であり、ささえとなり、励ましとなってここまで続けてきました。

今後とも、まだ親元で暮らしている障害者も含め、重度重複障害者がともに暮らすグループホームに暮らす人たちが、安心していっそう充実した生活が出来るよう、『支える会』も一丸となって支援して行きましょう。

日常生活を支えると言うことは地味な仕事ではありますが、実はここにこそ私たち支える会の会員・賛助会員の果たす役割があると思っております。

重い障害者たちの地域生活や、生活を支えるスタッフたちの心強い応援団として、皆さま一人ひとりがそれぞれのライフスタイルに合わせて、未永くご参加くださるようお願い申し上げます。

記

会費について (1) 年会費です (2) 入会金は無し

正会員	個人	2,000円	団体	10,000円
賛助会員	個人	1口	2,000円	(1口以上)
	団体	1口	10,000円	(1口以上)

お知らせ

障害者地域活動ホームしもだ 第18回地域交流バザー

日時： 5月21日（日） * 支える会も参加しています

会場： 活動ホームしもだ（港北区下田町6-31-8）

今月のよつばホーム



よつばホーム

先日、よつばホームのみんなでカラオケボックスに行ってきました。前もって計画していたこともあって、朝からみんな楽しみです♪

次郎さんは普段朝食後は居室でビデオみるのが習慣なのですが、この日は出発の2時間前から準備してリビングにいます。藤田さんは目をパッチリ開け出発を待ち、勢津子さんは出発前にお花に水をやり、花岡さんは洗濯物を干して時間まで過ごしています。そして全員車に乗り込み出発！

カラオケボックスに着くなり、まず花岡さんがマイクを握ります。勢津子さんはマラカス、次郎さんはタンバリンでリズムを刻みます♪藤田さんは笑顔で聴いています。

前半は花岡さんのソロコンサートで終了。そして昼食はみんなでピザや焼きそばなどを注文。おいしくいただいて午後の部へ。

後半戦は次郎さんのリクエスト特集でした。

帰宅してからもみんな笑顔で、とても楽しんでくれた様です。

第2よつばホーム



3月29日、第2よつばホームも2年を迎えました。さまざまな人たちの協力のおかげで入居者も落ち着いた生活が出来るようになってきています。よつばホームを見習ってこれからも入居者にとって暮らしやすい環境を作って生きたいと思っています。ぜひみなさま、遊びに来てください。

さて、今回は入居者の好きなことについてお話したいと思います。

阿部さんは・・・なんとと言っても“ジノジノ”と呼ばれている、ボールペンで雑誌に絵(?)を書くことです。とても集中しています。あとは、職員とのキャッチボールもとても楽しそうです。

山田さんは・・・時々ヘルパーさんに体を揺らしてもらおうととても楽しそうです。音に敏感な宏さんですが、コンサートで落ち着いて聴いていたり、素敵な音楽も好きなのかもしれませんね。

大原さんは・・・いろんな方とお話するのが大好きです。ヘルパーさんやバイトさんと消灯前にお部屋で楽しそうな笑い声など聞こえてきます。あとは外出したりするのもお好きなようです。

富岡さん・・・なんとと言ってもミッキー&ミニーの音楽や、ビデオが大好きです。タオルや洋服、バックなど、かわいいミッキーグッズをたくさん持っています。